



主役登場

モバイルインターネットの 進化に寄せて

保田 佳之

NTTドコモ
担当部長

今や、携帯電話の世界においても、「電話」の機能ばかりでなく、かつてはPCでしかできなかったメールのやり取りや、着信メロディ・音楽のダウンロードなど、インターネット接続を活用した一層便利で豊かな機能が普及しつつあります。

私たちは、「お客さまに、もっと快適な環境でモバイルインターネットを使っていただきたい」、そう思って開発に取り組んでいます。きれいな液晶画面や操作性ももちろんですが、高速な通信環境により、欲しいメールやデータが即座に入手できることも、お客さまにとって重要な要素である、そう信じてHSDPA（High-Speed Downlink Packet Access）の開発を進めてまいりました。

携帯でのデータ通信というのは、改めて振り返ってみますと、MNP（Microcom Networking Protocol）クラス10モデムを使ってPC通信を楽しんだアナログの時代からありました。第2世代のPDC（Personal Digital Cellular）の登場により、2.4 kbit/sのデータ通信機能が、携帯機への標準的な機能として具備されました。その後、9.6 kbit/sに速度がアップされたのですが、この時のキャッチフレーズは、「高速（!）データ通信」とか、「ハイパーがやって来た」というものでした。今にして思えば、「どこが高速なんだい!？」というお叱りを受けそうですが、当時は、これをありがたがったものでした。その後、28.8

kbit/sへの高速化、PHS（Personal Handyphone System）の登場、FOMA（Freedom Of Mobile multimedia Access）による384 kbit/sの実現と、移動通信の世界でも高速化への取り組みが一層活発になり、iモードの登場と相まって、モバイルインターネットの基盤が確立していったことが、ついこの間のことのようです。

当時は、無線の移動通信で、Mbit/sの速度が達成できるとは想像もしませんでした。試験や評価を重ねるうち、その速度を肌で感じる事ができ、技術者として未体験の世界に足を踏み入れたことにワクワクし、夢中になってデバグを続け今日に至っています。ところが、便利な環境に慣れてしまうと、FOMAで384 kbit/sが実現できたときのあの感激もどこへやら、一度HSDPAを使うと、もう後戻りできなくなってしまっています。

この先も、思いもよらないリッチなマルチメディアコンテンツが登場してくると思います。無線の高速化は、リソースの有効利用も実現しますので、レスポンスの向上ばかりでなく、パケット代の低廉化にも貢献しています。私たちの技術により、お客さまが、より快適に、より安心してモバイルインターネットをご利用いただけることに疑いはありませんが、同時に、私たち開発者にも、これまで誰も見たこともない景色を見せてくれるものと信じて、今後も鋭意取り組んでいく所存です。